

部門別の概況（連結）

戦略事業が好調に推移したことで、当中間期は売上高、経常利益、中間純利益ともに増加となりました。各部門別の概況を、詳しくご報告します。

コンシューマ部門

320万画素、光学3倍ズームレンズ、2.0型大型液晶モニターを搭載した「EX-Z3」が国内で首位を独走するなど、デジタルカメラが好調に推移。また、圧倒的シェアを持つ電子辞書が業界最多32冊の辞書を収録した新製品の投入によりさらに大きく拡大し、ともに期初予想を上回る販売実績をあげ大幅増収となりました。



売上高
86,934百万円

時計部門

G-SHOCK最高峰シリーズ「The G」の好調により、電池交換不要のソーラー駆動システムを搭載した電波時計が大きく伸長するなど、着実に市場を広げ増収となりました。



売上高
35,205百万円

MNS部門

新製品投入時期のずれにより前年同期比では減収となりましたが、5月に発売した「au」ブランド初となるメガピクセルカメラ付き第三代携帯電話が、予想を上回る好調を維持しています。さらに韓国LGテレコムと提携し韓国で販売を開始するなど海外市場の拡大にも注力しました。



売上高
38,522百万円

情報機器部門

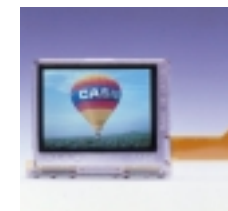
最適なハードウェアとアプリケーションを組み合わせたさまざまなソリューション展開を図りましたが、世界的なIT関連需要減退の影響を受け、若干の減収となりました。



売上高
24,322百万円

デバイス部門

デジタルカメラや携帯電話の活況を受け、TFT事業が大きく売上をのばしました。カシオマイクロニクス(株)のフィルムデバイス事業も、パソコンの需要回復により主力製品であるCOF(チップ・オン・フィルム)が当初想定を上回る勢いを示すなど好調に推移し、大幅な増収となりました。



売上高
40,828百万円

その他部門

山形カシオ(株)の部品事業が大きく伸長し、フレクストロニクス社との製造委託提携に伴い愛知カシオ(株)の独自事業を整理した影響を吸収し、部門全体としては横ばいに推移いたしました。



売上高
14,767百万円